

関係各位

謹啓 麗春の候、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。
平素は本学園両校の運営にご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、いわゆる『新型コロナウイルス』の件につきましては、世界中を席卷し人々の日々の生活に静かに影を落としている状況にあります。

はからずも、去る3月6日に挙行された両校の合同卒業式において小生より卒業生諸君に送った告辞におけるスペイン風邪の歴史から学ぶという話の中の、

- ・翌年まで世界中で猛威をふるった。
- ・「第一波」「第二波」「第三波」があった事実。
- ・「短期間で収束することはまず困難」

は、今まさに私たちの生活を覆いつくしながら「事実」となりつつあります。

その中であっての新年度、学園教職員一同いかに事実と向かい合うべきかを創意工夫しながら日々過ごしております。

新年度、「在宅での課題対応」「特別編成」「時短編成」等例年とは異なる方法でのスタートとなり、改めて「職業教育とは何か？」を深く考える貴重な機会となりました。

「社会で必要とされる技術」「確かな技術に裏付けられた理論」「理論と技術で社会に貢献するに必要な専門性を持つ人材としての自覚」、これらを学生と共に磨く上で、改めて「様々な学びの機会・手法がある」という認識を持つと同時に、「直に学ぶ空間」が如何に貴重かということを再認識する機会ともなりました。

社会状況を鑑み、少しずつこの空間が広げられるように、試行錯誤しながら日々編成をしているところであります。

今は、本学園両校にて日々勉学に取り組む学生のみなさん、日々支えて下さる保護者のみなさん、そして希望を叶えるべく全国・世界から本学園に駆け付けて下さる講師のみなさんの生命・安全を第一に考え、若者の未来の希望となるべく、移動・実技習得等の空間的・時間的制約も含めて少しずつ解決策を見出しながら、環境を整えていくことこそが現時点での最適解と考えます。

その中であって、引き続き様々な学びの対応を通して、試行錯誤を重ねていく所存です。重ねてご理解の程よろしく願いいたします。 謹白

令和二年四月
学校法人北陸学園
理事長 加藤聰介
教職員一同